

お楽しみ 十たが

2012



vol.118

11

はいっポーズ!

《訓子府地区・緑丘》

あきひと
浜田美沙子さんと晃人くん

(紹介は2ページです)

特集

- 馬鈴しょ集出荷施設が完成
- 第7回農業体験&見て歩きツアー



てん菜の収穫

季節の薫り



外気も日に日に冷たくなってきた10月、山々の木々は少しずつ緑から黄色、赤に彩づき始めてきた。

紅葉にはまだ少し早い山を背景に、てん菜の収穫作業が各地で始まった。

北見市北上の北海道糖業(株)北見製糖所では昨年より2日早く10月18日からてん菜の搬入作業を始めた。同製糖所の操業開始に合わせて当JA管内のてん菜生産者も収穫作業をスタートさせた。

畑ではトラクターが忙しく動き回り、大きく育ったてん菜は、トラクターにけん引されたハーベスターで収穫され、見る見るうちにビートの山が高くなっていく。



この作業が終わると、24年産の収穫作業がほぼ終わり。堆肥の散布や耕起した後、畑は来年の春までしばしの休憩となる。

【写真は10月11日、置戸地区拓実のオホーツクアグリサポート(株)が作付けする圃場で撮影。同社ではてん菜を17銘柄作付けしています。

J Aきたみらい管内のてん菜作付け面積は3,860㌦で、生産量21万㌦を見込んでいます。】

表紙紹介

愛らしい笑みで 家族が笑顔

曇天の隙間からわずかに青空が見えた11月1日、天気が崩れないことを願いながら浜田さん宅に着くと、お母さんの美沙子さんに抱っこされた異人くんがニコニコと笑顔で迎えてくれました。

取材をしている最中、茶の間を元気にハイハイしたりブロック遊びしながら時折、愛らしい笑顔を見せてくれる異人くん。ひいおばあちゃんの子さんは「異人の笑顔につられて、みんなが笑顔になります」と話してくれました。1才1ヶ月になり、少しずつ言葉も覚え、「マンマ」「じい、ばば」などと声に出すようになりました。

日中、家族が仕事に出ている間は、家でひいおばあちゃんとお留守番していますが、伝い歩きができるようになり、散歩のかたわら牛舎に入ると牛を見たり、ネコと遊んだりもします。

トラクターなど乗り物に興味を持ち、「いっしょにトラクターに乗ってハンドルを握らせたら、嬉しそうでした」とお父さんが話し、お母さんは「元気で明るい子に育ってほしい」と優しく話してくれました。



【ご家族紹介】
左から～お父さんの和晃さん(25)、お母さんの美沙子さん(25)、ひいおばあちゃんの一子さん(76)、おばあちゃんの和美さん(50)と異人くん(1才1ヶ月)、おじいちゃんの光男さん(51)。
浜田さんは搾乳牛、育成牛など合わせて約80頭を飼育する酪農専業農家です。

もくじ CONTENTS

特集①	馬鈴しょ集出荷施設が完成 選別能力向上・日量120トンの実現	4
特集②	第7回 農業体験&見て歩きツアー	6
○季節の薫り	2
○表紙紹介	「愛らしい笑みで家族が笑顔」	2
○JAきたみらい ホットライン東西南北	8
○ほのぼのの広場	12
・きたみらいのホープさん	
・思い出の写真	
・マイテイスト	
「写真撮影」	
・私のパートナー	
・わが家のアイドル	
・大きくなったら	
・おらがまちのおしどり夫婦	
・まちがいきがし	
・読者の声	
○JAからのお知らせ	16
○おひさまサラダクッキング	20
「うどんすき」	
「ダイコンとひき肉の炒め煮」	

特集

馬鈴しょ集出荷施設が完成 選別能力向上 日量120ト実現!! 東相内青果物センター

JAの念願であった馬鈴しょ集出荷施設が10月23日に完成し、生産者や役員、主要市場、工事関係者など約200名が出席して、盛大に落成式が執り行われました。集出荷施設の整備に伴い、「選別能力と高品質化」が実現し、大きな期待が寄せられています。

完成修祓式、祝賀会 盛大に開催

馬鈴しょ集出荷選別施設完成の修祓式が開かれ、当JAの西川組合長から順に玉串奉奠を行い、操



▲施主挨拶を述べる西川組合長

業の安全を祈願しました。参列者の皆さんに西川組合長は「さらなる作業の効率化と高品質化が求められており、施設整備が急務となっていた。今後、組合員と農協が一体となって良質な馬鈴しょを供給したい」と挨拶しました。参列者が見守るなか、組合長を始め、8人の方々にテープカットが行われた後、新装された集出荷施設が披露されました。その後、ホテル黒部に場所を移し、祝賀会を開催し、先端技術を駆使し、高性能施設の完成に携わった施工各社に感謝状を贈呈しました。

光センサーを全ラインに 空洞除去、高品質化に期待

今回完成した東相内馬鈴しょ選別施設は、選別貯蔵施設をリニューアルしたもので、この再編により北見選果場は長い役割を終えることになりました。また、これと同時に置戸選果場も改修し、完成に約7ヶ月を費やしました。置戸選果場では、空洞センサーが2.1規格のラインしか対応されていませんでしたが、全規格に



▲新施設を公開、選別ラインに送り出される馬鈴しょ

光センサーが導入され、市場や消費者へより高品質の馬鈴しょを届けられる体制が整いました。東相内選別施設では、箱詰めされた馬鈴しょを規格別に積み上げていく最新のロボットパレタイザーを2基導入し、箱積みの迅速化を図っています。これら最新の技術によって、高品質の馬鈴しょを日量120ト処理でき、旧選果場に比べ、選別能力がアップします。これで、東相内、置戸、訓子府、端野を合わせ、4拠点に再編移行され、選別施設の充実と集約化が実現しました。産地の信頼性向上に大きな期待が寄せられるところです。

技術の粋を集めた東相内施設には見学通路も整備されており、2階部分から選別や梱包作業の様子を見渡すことができます。食育や施設見学にも応えてまいります。(見学は要予約、団体の方のみ受入可能となっております)。



▲参列者が見守るなか、テープカットにより操業が開始される
左から、シブヤ精機・渡邊社長、種子馬鈴薯生産組合・高橋会長、馬鈴薯振興会・平川会長、西川組合長、武部代議士、高橋道議(秘書)、船橋道議、五十嵐建設・五十嵐社長

青果物センター 馬鈴しょ選別施設

原料受入

- ①ダンパー
畑で収穫した馬鈴しょを選別機械に投入します
- ②一次手選
キズのついた馬鈴しょを取りのぞきます
- ③土落機(エアブラシ式)
ブラシと空気噴射で馬鈴しょの土を取りのぞきます
- ④小玉抜機
小さい馬鈴しょを選別します

土落機(エアブラシ式)

JAきたみらいとシブヤ精機とで共同開発した特許製品で、今では多くの馬鈴しょ産地で活躍しています。本施設では、これを2つ直列に配置しました。2つの土落機をくぐることで馬鈴しょに付着した土を、以前に比べてより細やかに落とすことができ、イメージアップにつながります。

- ⑤二次手選
形の悪い馬鈴しょを取りのぞきます
- ⑥形状選別機(カメラ式)
馬鈴しょの大きさをカメラで選別します
- ⑦空洞検査装置
馬鈴しょの空洞の有無を判別します
- ⑧PKコンベヤー
同じ大きさの馬鈴しょをそろえます
- ⑨三次手選
ダンボールに入る前にもう一度馬鈴しょをチェックします

光センサー

光を照射して空洞の有無を見分けます。馬鈴しょに反射した光は様々な方向へ向かいます。光の進む角度が異なると、光の色も違って見えます。つまり、プリズムとなります。空気中の水粒子が太陽光を反射して私たちに虹をみせてくれるのと同じ原理です。特に、空洞のデコボコで反射した光の形状(スペクトル)は特徴的で、それに合致したものを選別します。

- ⑩ダンボール用自動秤量機
馬鈴しょを10kgごとダンボールに詰めます
- ⑪ウェイトチェッカー
ダンボールの重さを機械でチェックします
- ⑫自動封函機
ダンボールのふたをノリ付けします
- ⑬ロボットパレタイザー
同じ規格のダンボールをロボットで積付けします

出荷・全国各地へ

ロボットパレタイザー

箱詰めされた馬鈴しょをパレットへ規格ごとに積み上げていきます。小型化が実現したことによってスピードが増し、従来の2規格から3規格へ、2台で6規格まで対応できるようになりました。まるで生き物のような動きにワクワク感が止まりません。

- ⑭ダンボール供給装置
ダンボールの束を自動製函機に供給します
- ⑮自動製函機
ダンボールを自動で作ります

特集 第7回「農業体験&見て歩きツアー」
食べよう!学ぼう!体験しよう!

こんなに
大きいジャガイモ
見て!見て!



▲『男しゃくは食材の
万能選手』と説明する
須藤久義さん



▲▼哺乳・搾乳・バター作りと
大奮闘の小山勇樹さん



子牛さん
いっぱい飲んでね



振って、振って
もっともっと振って!



じゃがバター最高!
どっちの笑顔も最高!



▲参加者全員で`記念の1枚。`

秋晴れに恵まれた10月6日、JAきたみらいは「第7回農業体験&見て歩きツアー」を行いました。JAの「食農教育活動」として、「楽しもう!学ぼう!体験しよう!」をキャッチ・フレーズに参加者を募集。北見市と訓子府町の親子など23名が参加し、馬鈴しょ収穫や哺乳・搾乳、バターづくり体験を楽しみました。その内容を報告いたします。

同ツアーは地域住民向け「コミュニティ紙「べりんGreen」」に掲載。応募された20組のな

「農業体験&見て歩きツアー」

10月6日(土) 時間割
 一登校一 8:00集合、バスで移動
 「1時間目」じゃがいも収穫体験 須藤久義先生(置戸・馬鈴しょ農家)
 「2時間目」哺乳・搾乳体験 小山勇樹先生(置戸・酪農家)
 「3時間目」バターづくり体験 引き続き小山勇樹先生
 「給食」献立 じゃがバター、きたみらい牛乳&アイスクリーム
 「ふかしたじゃがいも」を搬入、バター(市販・手づくり)味比べ
 「4時間目」感想文 保護者アンケート作成
 一下校一 12:30

かから10組23名の方々に参加頂きました。
 当日、はじめに置戸町豊住の須藤久義さんから指導を受けて、馬鈴しょ畑で収穫体験。スコップで土を掘り起こし、馬鈴しょを拾い集めました。続いて、置戸町川南の(有)小山牧場で小山勇樹さんの指導を受けて子牛の哺乳と搾乳体験。前日に生まれたばかりの子牛を見ることができたのは、貴重な体験でした。
 最後に、置戸地区事務所へ移動して、ペットボトルを使ったバターづくりに挑戦しました。ふかしたての馬鈴しょにバターを付けて試食、手づくりのおいしさは格別、満面の笑顔がこぼれていました。

**農業体験ツアー
参加者アンケートより**

- Q1. ツアーに「参加してみよう」と言い出したのはどちらですか。
 ①私(両親・祖父母)・・・8人
 ②お子さん、お孫さん・・・2人
- Q2. ツアーで印象に残ったことは。
 ○搾乳体験
 ○哺乳体験
 ○牛舎見学
 ○芋堀り体験
 ○生まれたばかりの子牛を見ることができたのは貴重な体験でした。
- 畑にミミスがいなかったこと。
 ○作ったバターが思ったより少なかったこと。
 ○あんなに大きな芋ができるなんて知らなかった。
 ○365日生き物の世話はとても大変ですね。ヘルパーさんがいるのはとても良いことだと思います。
- Q3. ツアーで感じたこと、要望は。
 ○普段体験しないことを子どもと一緒に楽しめて良かった。次回も期待します。
 ○生産者、JAから農業を知ってもらいたいという意識が強くなりました。

じられました。地産地消を改めて心がけたいと思います。子どもたちに日頃食べているものがどのようにできるか、またできるまでの大変さを知ることが、食への大切さやありがたみが分かるように今後も継続した企画をお願いしたい。
 ○楽しかった!おいしかった!感動した!ゆっくりと見学もできて大満足です!また是非参加したいです。
 ○生産者とふれあう機会があることはいいことだと思います。特に子どもたちはスーパーでしか野菜を見ることがないので、毎年ツアーを開催して、生産する苦労話を聞かせたい。
 ○天候にも恵まれて、いい体験ができました!この経験を期に子どもが食べ物へのありがたさを知るきっかけになればと思います。
 ○普段の生活では体験できないので、うれしかったです。子どもにも搾乳・哺乳体験をさせてもらえたことは本当に貴重でした。そして、協力頂いた須藤さん、小山さん、ありがとございました!また参加させてもらいたいです!
 ○三つも体験できて楽しかった。子どもたちが食の大切さを知ってもらえたら最高です。
 (一部、抜粋して掲載しました)

黄金色の畑で 収穫作業開始

～収量に期待し
大豆を刈り取る～
ONNEYU 温根湯



▲コンバインで大豆を収穫する牧野さん

温根湯平里地区の(有)牧野産業(牧野篤嗣代表)の圃場では10月24日、大豆の刈り取り作業が始まりました。気温も下がり、冬の到来間近を感じさせるなか、1ヶ月前までは青々としていた畑の大豆も今は黄金色に変わり、子実が膨らみ、収穫適期となった大豆は、「コンバインであっという間に刈り取られていきます。」

1日で2畝程が収穫され、刈り取られた大豆はトラックに積み込まれ、農協倉庫へ運ばれていきます。大豆10畝のほかに、小麦、てん菜、玉葱、人参を作付けする牧野さんは、「天候に恵まれれば、4日間程で収穫作業を終わらせたい。反当り収量は平年並みの5俵を期待している」と話してくれました。



脱穀から 精米まで体験

～収穫したもち米
全児童で給食～
AINONAI 相内



▲脱穀作業する東相内小学校の児童たち

北見市立東相内小学校(5年生25人)は10月16日、もち米の脱穀と精米の体験学習を行いました。網走農業改良普及センターの李家(しのいえ)主査より脱穀から精米までの説明を受けた児童たちは、脱穀機、唐箕(とうみ)、もみすり機、ライスグレーダー(ふるい)、精米機を使い、一連の作業を交代しながら体験していました。特に脱穀では、

機械に稲わらがからみ、止まってしまうなどの、児童たちは悪戦苦闘しながらも根気よく頑張っていました。10月17日には、相内小学校5・6年生が同じ作業を行いました。両校では、今回精米されたもち米を使った「もちつき」が12月に行われ、学校給食で全児童に振る舞われる予定となっています。

▼収穫した小豆をフレコンへ流す不動さん



KAMITOKORO 上常呂

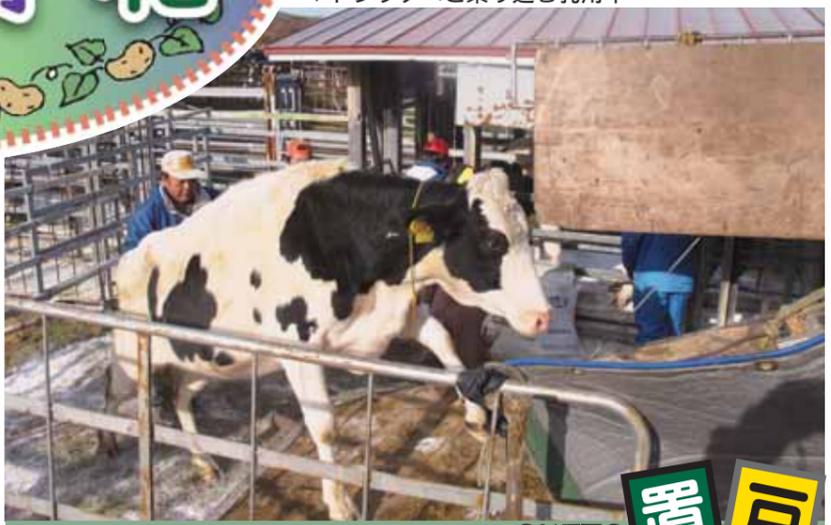
収量と価格に期待し

～輪作に小豆作付
土壌病害の抑制～

上常呂豆類収穫機利用組合(渡部剛組合長)は9月中旬から小豆の収穫を始めました。馬鈴薯の収穫が一段落した10月上旬から小豆収穫の最盛期を迎えました。同地区では土壌病害の抑制を目的に輪作体系を見直し、以前は作付の少なかった小豆の作付を振興、平成21年に11戸が共同して、補助事業でビーンカッターとスレシヤーを各3台導入しました。

本年、共同機械利用による収穫は23戸、32畝となり、導入前から比べ7倍以上に拡大しました。広郷の不動英二さんは「キタロマン」を2畝栽培。10月10日より収穫を始めました。今年の小豆の出来について不動さんは「作柄も良く、反当たり5俵以上はあるのではないかと、価格も1俵で2万円以上しているの、収益も期待できそうだ」と笑顔で話してくれました。

▼トラックへと乗り込む乳用牛



OKETO 置戸

ひとまわり 大きくなって

～185頭の牛が
5ヶ月ぶりに帰宅～

置戸町の釧北牧場では10月25日、同地区の酪農家、置戸町、JA、運送業者などが協力し、一斉退牧が行われました。5月下旬、乳用牛と和牛合わせて約280頭が入牧、途中、分娩などで退牧した牛もいたため、この日は185頭が退牧しました。退牧した牛たちは、約300畝の

広い牧場の中で約5ヶ月間、栄養満点の牧草をいいくまで食べ、ひとまわりもふたまわりも大きく、たくましく育っていました。秋晴れの日差しのもと、広大な各放牧区から1ヶ所に集められた牛は、1頭ずつ耳標を確認、農家ことに分けられ、トラックに次々と乗り込み、生まれかわが家に帰っていきました。

端野の味覚求め 長い列

～端野農業物産フェア開催～

TANNO **端野**



▲無料豚汁を配布する女性部・フレミズ部員

収穫の喜びを地元消費者に届けようと「端野農業物産フェア」が10月14日、同地区事務所前の特設会場で行われ、多くの来場者で賑わいました。秋晴れのもと、花火を合図に郷土芸能「端野豊穡太鼓」で開幕。もち米や青果、農産物などの格安販売や、1袋100円の玉葱、馬鈴薯の袋詰め放題には長い列ができました。JA女性部とフレミズ端野支部では地場産野菜がたっぷり入った豚汁

を無料配布、受け渡し場所には長蛇の列ができ、1時間も少ないうちになくなりました。また昨年の東日本大震災で被災した姉妹都市、宮城県丸森町も参加した。同町訪問団長の船山雅弘さんは「震災後、皆さんから受けた支援に感謝しています。今年も特産品を販売できることが何よりも嬉しい」と挨拶を述べていました。

新そばの 収穫始まる

～美里そば工房で
11月から直売～

KITAMI **北見**



▲そばの収穫を行う安齊さん

北見地区美里の安齊誠一さんは10月5日、そばの収穫を始めました。安齊さんはそばを4・5畝栽培。毎年6月に圃場に播種、10月に収穫しています。今年の生育状況について安齊さんは、「草丈は昨年より低めだが、実もしっかりしており、平年並みの出来です」と話してくれました。

当JA管内では、そばの栽培は少なく、美里では現在、安齊さんを含め2戸が栽培しています。収穫されたそばの実は自然乾燥させ、石臼ですば粉にします。栽培面積が小さいため、製粉されたそば粉は一般には流通されませんが、そば加工販売体験施設「美里そば工房」で直売されます。今年の新そばが出るのは、11月になる予定です。

東西南北

▼トラクターで「ニオ」を形作っていく茂住さん



RUBESHIBE **留辺蘂**

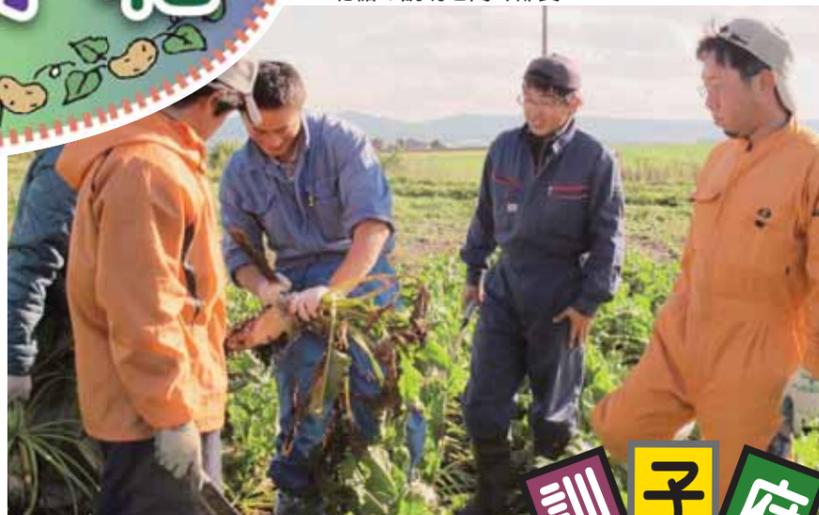
白花豆の ニオ積み最盛期

～品質・収量ともに上々～

きたみらい豆類振興会会長を務める大富地区の茂住修二さんの圃場では、白花豆のニオ積み作業が10月16日より始まりました。約2畝作付けされた白花豆は手作業で竹抜きされた後、トラクターでニオ積みされていきます。今年の天候は、9月上旬の猛暑や干ばつの影響といった心配もありましたが、品質もなかなかの出来で、

多少小粒傾向ながら平年通りの収量が見込めるということです。茂住さんは、「白花豆の作付け面積は減少傾向にあるが、消費者の期待に合わせるためにも現状面積を維持していきたい」と意気込みを語ってくれました。10月末までニオ積みされた白花豆は、脱穀された後、乾燥・調製され全国へ出荷されます。

▼北糖の説明を聞く部員



KUNNEPPU **訓子府**

甜菜 5 圃場で 収量調査

～畑作専門部
調査に8名参加～

JAきたみらい青年部訓子府支部畑作専門部（佐藤利治部長）は10月15日に、てん菜の収量調査を行いました。同専門部は39名の部員で、畑作物（小麦・馬鈴薯・てん菜・豆）の試験圃を設置し、春から自主的な管理のもと、馬鈴薯よの「早期培土試験」やトラ豆の「株間試験」などを35圃場で行ってきました。

当日は好天のなか、部員・北糖・JA職員ら8名が参加し、「肥料試験と育苗苗の交換試験」を行った5圃場を調査しました。佐藤部長たちは「収量は昨年より良いので糖分に期待したい。試験結果を参考に今後の栽培に役立てていきたい」と調査を行いながら話していました。

私のパートナー



今月号の「私のパートナー」は、地域の交流会で出会い、結婚7年目になる井上光夫さん、夕紀さん夫婦を紹介いたします。

家族元気に仲良く

留辺蘂地区・花園
井上光夫さん(35歳)
夕紀さん(34歳)

- Q 結婚されたのはいつですか?**
平成17年の9月です。
- Q 知り合ったキッカケは?**
地域の交流会で、ミニバレーをやった際に知り合いました。
- Q 初めて合った時の印象は?**
光夫さん…「話しやすい人だな〜。」
夕紀さん…「おもしろそうな人だな〜。」
- Q 結婚を決意した大きなポイントは?**
一緒にいてお互いに自然体でいられたことです。
- Q 互いに感謝しているところは?**
光夫さん…「毎日の育児、家事をこなしてくれてるところです。」
夕紀さん…「一生懸命お仕事を頑張ってくれているところ。」
- Q 一週間自由時間があればなにをしたいですか?**
新婚旅行で行ったタヒチがすごく良かったので今度はモルティブ海海外旅行にいきたいです。
- Q どんな家庭を築きたいですか?**
みんな元気で、仲の良い家庭を築いていきたいです。



第22回北見地区JA女性部研修大会

思い出の写真

女性部で「よさこい」披露

この写真は、今から15年前に、毎年2月頃に開催されているオホーツクJA女性部研修大会・家の光大会のアトラクションの時の写真です。
参加者は、役員さんと当日出れる人で集まって、置戸町で高校生などによさこいを教えていた町民の方にお祝いし、年代を問わず踊れる振り付けをしてもらいました。
数回、公民館や旧駅舎に集まって練習をし、本番に挑みましたが、当時はアトラクションでよさこいを披露したJAはなかったようで、とても楽しく盛り上がったと話してくれました。また、同年3月に開催されたJAおけとの女性部総会でも披露しました。
これがきっかけになって、置戸町にもよさこいのチームが結成され、札幌の大会にも参加するほど一生懸命になった部員の方もいたようです。
現在は、「はぐるま」というグループの代表をしていて、牛乳豆腐などを作り各地のイベントに参加しています。
家の仕事や、色々な活動で常に動いていて病気知らずの元気な姥名さん、「動けなくなるまで、いろいろなことを続けたい」と話してくれました。

【写真説明】
北見地区JA女性部研修大会で、当時の置戸女性部13名で「よさこい」を披露、最後の決めポーズ。
(蝦名さんは前列右から3番目)

置戸地区・拓実
姥名美佐子さん(70歳)



マイテイスト 写真撮影

大原さんの趣味は写真撮影です。農作業の合間を見て、気に入った景色があると撮影しています。親戚に写真好きの方が多かったことが、趣味とするキッカケになったとのこと、技術や現像の方法などは、18歳の頃から独学で勉強したそうです。
大原さんが最初に購入したカメラは「ペンタックスSP」というカメラで、現在使用しているカメラは「ペンタックスK-5」です。
大原さんは「温根湯写真集団つつじ」に所属しており、昭和59年から現在まで会長を務めています。この会では年に3回程撮影旅行に行くそうで、道東一円にみなさんと撮影に行くとのこと。町の文化祭に参加、展示するなどしており、北見の喫茶店「珈琲工房ばんかむ」にも撮影した写真が展示されているとのこと。
現在大原さんが熱中していることは、撮影した写真をパソコンを使って保存したり処理などをするということです。撮影してみたい風景は、「道北のサロベツ原野から見える利尻山です」と話してくれました。



温根湯地区・昭栄
おおはら ゆきお
大原 行雄さん(64歳)



▲写真は、2010年1月14日に大原さんが撮影した北見富士の夕景です

ほのぼのの広場



きたみらいの
ホープさん

品質の良い作物を

北見地区・川東
小川 圭祐さん(22歳)

圭祐さんは、玉葱などを栽培している小川淳志さん、美代子さん夫妻の長男で、就農して2年目になります。

- 趣味は?**
車をいじったり、インターネットでゲームをすることです。
 - 好きな食べ物、嫌いな食べ物は?**
好きな食べ物～寿司とラーメン
嫌いな食べ物～白子とサンマ
 - 理想の女性は?**
自分の意見を持っていて、誰にでも優しく対応できる可愛い女性。
 - 結婚はいつ頃までに?**
20代後半までにははしたいと思っています。
 - 農業に対する抱負は?**
少しずつ作付面積を増やしていき、品質の良い作物を作っていきたいです。
- 12月号の「ホープさん」は、JAきたみらい青年部?支部の?さんを予定しています。広報編集委員が突然、取材にお伺いすると思いますが、何卒、ご協力願います。

まちがいさがし

Bのイラストには、Aのイラストと違う部分が5カ所あります。間違っている部分を右下のイラストの中の数字でお答え下さい。

A



B



10月号クイズの当選者

10月号のまちがいさがしの答えは「1. 3. 5. 6. 12」でした。正解者37名の中から抽選の結果、当選者は次の方々です。尚、抽選はJAきたみらいの坂下専務にお願いしました。

()内は地区名

- ・石村 博樹さん(置戸)・中川 陽子さん(相内)
- ・中澤ひさ子さん(置戸)・熊野 智文さん(上常呂)
- ・竹村 幸一さん(訓子府)・中嶋 芹菜さん(北見)
- ・柴田 悠さん(訓子府)・阿部 末子さん(北見)
- ・斉藤 義博さん(訓子府)・館野 学さん(端野)

以上の方々には、永田養蜂の天然ハチミツ(200g)をプレゼントします。



応募方法

答えが解った人は、別紙の応募用紙に答え(番号)と広報誌へのご意見・ご感想を記入してFAXでご応募下さい。抽選10名の方に、日の出めん(訓子府町)の半生うどん(6人前)をプレゼントします。

大きくなったら



相内地区・豊田

矢田目 璃輝くん (8才)

お父さんの仕事をしたい!

ほくは、農業機械がだいすきです。休みのときは、一日中お父さんお母さんのまわりでお手伝いをしています。

特にトラクターに乗るのが一番好きで、農業機械の名前がほとんど分かります。早く大きくなってトラクター作業をしたいです。

好きな事は、野球・サッカーと習い始めたそろばんも好きです。

璃輝くんは矢田目孝裕さん、朋美さん夫妻の3男です。

ほのぼのの広場



訓子府地区・西富

河合 ひよりちゃん(2歳)

お手伝いもするよ!

お母さんと一緒に出迎えてくれた元気いっぱいひよりちゃん。

好きな遊びはおままごとで、木で出来たおもちゃのくだものを切ったりして遊ぶのが好きです。

食べ物は何でも食べますが、特に好きなのは果物(イチゴ)だそうです。

ひよりちゃんは普段お散歩をしたり支援センターに行ってお友達と遊んだりしていますが、農作業(メロン)が始まるとお父さんお母さんと一緒に朝5時頃に起きてハウスにきてメロンの箱に物を入れたりなどお手伝いをしています。

お母さんは、「風邪もひかざとも健康なのでとにかく元気に育ってほしい」と話してくれました。

ひよりちゃんは河合正重さん美樹さん夫妻の長女です。

毎月、楽しく読んでいます。写真もたくさんあるので見ていてとても見やすくてわかりやすいと思います。

(訓子府地区・山本 摩理さん)

毎月読んでいただき、ありがとうございます。これからも期待に沿える広報誌づくりを頑張りたいと思います。

若い人たちの記事を見ると代がわりしたんだなあと感じます。食を担う若者たちが誇りを持って働いていてもらいたいと願っています。

(端野地区・福江 智子さん)

これからの農業を担う若者たちには、元気なパワーで、ますます積極的に農業を盛り上げていてもらいたいですね。

読者の声

いがいとあたらないですね。こんどこそあてるぞ~!!!!

(端野地区・加藤 雅也さん)

残念ながら、今回も外れてしまいました。継続して、何度でもあきらめず送って下さいね。

アイワース日本シリーズ進出!! ありがとう。日本一になって札幌駅前パレード観てみたい。その前に28日学会でアコーディオンがんばるぞ。

(端野地区・今村 一郎さん)

私も学会でアコーディオン弾いたことありますよ。上手に弾けましたか? 来月号の読者の声で結果を教えてください。

おらがまちの



2人で温泉めぐり

おしどり夫婦



端野地区・緋牛内

貝沼 敏雄さん(76歳)
絹子さん(73歳)

敏雄さんは昭和26年に中学校を卒業後、就農しました。就農当時は豆類が作付の中で、えんどう豆、大豆、手亡、金時、小豆等様々な豆類を栽培。面積は当時12畝程度だったとのこと。当時は農作業のほとんどが人力と馬で行っており、冬の間は、豆の選別を昼は太陽の光、夜はランプの灯りを頼りに1人でこなしていたのが、今でも思い出される作業だ」と話してくれました。

絹子さんは端野町緋牛内で生誕。2男5女の3女です。実家も農家だったこともあり、農作業を手伝うことへの抵抗はまったくなかったそうです。「当時は全てが手作業で大変だった。機械化が進み自分が出れる範囲で農作業をやるようになり、当時は大変だった。今はいい思い出です」と話していました。

絹子さん

敏雄さん

INFORMATION

オホーツクブランドに認証

熟成「スノーマーチ」グラタン風コロッケ

J Aきたみらいの加工食品「熟成スノーマーチのポテトグラタン風コロッケ」がオホーツクブランド認定商品として認定され10月3日、市内のホテルで認証式が行われました。

オホーツクブランドは、(株)オホーツク振興機構が管内の企業が地元食材を使った優良な加工食品を認証する制度で、平成16年に創設され今年で9回目。今回は8事業所12品が新たに加わり、今までに31事業所64品の認定となりました。

認証式で認定証を受け取った坂下専務は「責任の重さを感じる。これからも1次加工に力を注ぎ、地域経済の活性化に寄与したい」と意気込みを話していました。



▲「熟成スノーマーチのポテトグラタン風コロッケ」と認定証

同商品は、北見市や訓子府町の給食などに使われているほか、管内のAコープやコープさっぽろ(北見地区)およびホクレン「へるるの杜」で発売されています。

当JAでは今年4月、地元産馬鈴しょを味わってもらうために、(株)グリーンズ北見と提携して「男爵」と「スノーマーチ」を原料にした3種類の冷凍コロッケとカットポテトを開発しました。

J Aでは、すでに「なまらドレッシング」「玉ねぎと牛すじカレー」「きたみらい牛乳」白花生の甘納豆「白花美人」など14商品を発売しています。

同大会は、北見青年会議所が主催し、全国から約1900人のランナーが参加。走り終えたランナーや応援に駆けつけた大勢の来場者にTPP交渉参加反対の署名活動と呼びかけ、120名から署名をいただきました。

TPP反対署名訴え

北見ハーフマラソン会場で

J Aきたみらい労働組合は10月7日、北見市内の香りやんせ公園で開催された「第4回北見ハーフマラソン大会」で、環太平洋戦略的経済連携協定(TPP)交渉参加に反対する署名活動を行いました。



▲来場者に署名を呼びかけるJA職員

また、同JAからは「きたみらい牛乳」と「オニオンスープ」を各600人分振る舞い、走り終えたランナーたちは、配布された牛乳やスープを飲んで疲れた身体に栄養補給していました。



▲軽快に走りだす、ランナーの皆さん



▲走り終えたランナーに牛乳とスープを配るJA職員

北見わかば幼稚園が見学

17団体685名が訪問

北見わかば幼稚園(白川恭江園長)は10月15日、端野地区の玉葱施設を見学しました。

当JAでは、食農教育の一環として毎年、施設見学を受け入れており、本年度も10月末までに17団体685名を受け入れています。見学施設はおもに玉葱および馬鈴薯選果施設や表調整乾燥施設で行っています。

11月以降も予約が入っており、本年度では20団体以上、1000名以上の見学者が見込まれています。

この日は、園児53名が選果場を訪れ端野地区の玉葱選果場およびムキ玉施設を見学、大型のリフトで大口

ンをダンパーに乗せる様子や、ダンボールに入った玉葱を積み上げるロボットを食い入るように観た後、ムキ玉施設では皮がはがされていく様子を、目をこすりながら見学していました。



▲職員の説明を真剣に聞く園児



▲ムキ玉施設を見学する園児(円写真：涙を手で拭きながら)



▲拾い集められ、分別されたゴミ

農道22キロを清掃

ゴミ収集に53人

J Aでは外郭団体や職員、北見市、網走農業改良普及センターの協力のもと10月20日、温根湯から留辺薬地区の間2路線で道路の清掃活動を実施しました。

この活動は2009年に策定した第3次地域農業振興方策の重点事項の1つ「環境に優しい農業展開」の取り組みとして実施され、本年度4回目の開催となります。

当日はJA役員や青年部、女性部、フレミズ役員に加え、北見市、普及センターも協力し53名が参加、温根湯と留辺薬の間の「林鉄線」と温根湯山間部の「川北線」、計22キロに渡って清掃活動を実施、収集したゴミ

は約150キロとなりました。同活動に参加した女性部留辺薬支部の春木君枝支部長は「清掃した農道はわが家の畑にも隣接していて、日頃から目についたゴミは拾いまして、あらためて拾ってみると、空き缶などが多く、安易にポイ捨てされていることを実感しました」と話していました。



▲「林鉄線」のゴミを拾う青年部留辺薬支部の部員

INFORMATION

2012

オホーツク農業祭に1500人来場

JAきたみらい青年部初出店

オホーツク農協青年部協議会は、農業・オホーツク産農畜産物や加工品の販売、販売を通じた青年部と消費者の交流や、PRを目的とした、第3回目となるオホーツク農業祭2012を10月21日、サンドーム北見で開催し、地域の住民1500人程が来場されました。



▲きたみらい加工食品の宣伝販売する青年部役員

JAきたみらい青年部は今回初めて出店し部員6名と、女性部から2名が参加し、地域の農畜産物を活かした加工商品のカレーやドレッシングを販売しました。さらに、試食としてオニオンコンソメスープ30食分と白花美人20食分を配布しました。

農業祭終盤では、各JAから提供された商品が当たる大抽選会が行われ、番号が発表される度に会場からは大きな歓声が上がっていました。

ブースが出店。玉葱、馬鈴薯、ほうれん草など新鮮な地元野菜、コロッケといった加工商品やカレーライス、豚汁などが販売されました。また、農産物販売だけでなく、スタンプラリーやバターづくり・ハロウィンかぼちゃづくり体験も行われ、参加した子どもたちはペットボトルを振ってバターを作ったり、かぼちゃをくり抜いたり、楽しみながらも一生懸命製作に取り組んでいました。

長いもまつり&収穫祭 延期のお知らせ

9月高温の影響で長いも収穫が遅延

ぐりんgreenの22号で掲載しました、11月10日に予定していましたがJAきたみらい主催の「長いもまつり&収穫祭」の開催につきまして、収穫の遅延により日程を下記のとおり延期致します。

○と き 11月17日(土) 午前10:00~12:00
○と ころ サンドーム北見(北見市東三輪5-1-10)
○内 容 きたみらい産長芋約4,000点をはじめ、玉葱、馬鈴薯、豆類、ヤーコン、ゴボウ、もち米のほか、きたみらいの加工商品(コロッケ、ドレッシング、カレー、オニオンコンソメ)を販売します。また、牛乳の無料配布(数量限定)も行います。

※地方発送も行っていますので、自家用はもちろん贈答用などでもお求め頂けます、是非ご来場下さい。



▲長いも収穫風景

てん菜振興に一役 作付委託の相談も

輪作と土壌改良に期待

北海道糖業(株)の関連農業法人であるオホーツクアグリサポート(株)では10月9日、置戸町拓実の圃場でてん菜の収穫作業が始まりました。

同社は約17畝のてん菜を作付け、反収は5ト程度を見込んでおり、まずまずの出来となっています。

同町の拓実地区では、余剰草地を活用しててん菜の作付けを行うことにより、牧草収穫の適期作業を行えるよう草地面積を適正化、更に、て



▲早期出荷に向け収穫作業中のてん菜畑(置戸地区・拓実)

ん菜の後作にデントコーンを作付けし、デントコーン・サイレーシを確保することを目指し、組合員ふれあい室が中心となり、地元酪農家と北海道糖業(株)が連携し取り組みを進めています。

本年は、同社のほか榎石北農業開発とあわせて、約35畝のてん菜作付けを行っています。

また、近年てん菜の作付面積が減少しているなか、その対策の一環として、来年度以降は約80畝の作付けを計画しています。

北海道糖業(株)では、てん菜の作付けにより、収穫残渣のビートトップ等による土壌への有機物供給や土壌の物理性改善が図られ、作物全体の品質・生産性向上が期待できることから、玉葱をはじめとしたその他作物の栽培においても、てん菜を輪作に適正に取り入れ生産性の向上を図ってほしい」と話しています。

また、苗の準備や植付け・収穫作業等、てん菜作付けについてのあらゆる相談を受けますので、北海道糖業(株)原料課(電話381241)まで、気軽に相談ください。

生ゴミ堆肥無料配布

家庭用菜園に大好評

JAきたみらいが運営管理する置戸町堆肥供給センターは10月21日、訓子府町民に生ゴミ堆肥を無料還元しました。

生ゴミ堆肥は訓子府、置戸両町から回収した生ゴミを、バーク(樹皮)と混ぜ、攪拌・発酵させ、約3ヶ月間をかけて堆肥化した物で、堆肥還元は2006年の秋から続けられています。

この日は、早朝から132戸の町民が軽トラックや乗用車でセンターに訪れ、肥料袋に次々と堆肥を詰め込んでいました。

肥を詰め込んでいました。1戸10袋までの限定でしたが、家庭菜園などに利用するとあって、用意された40ト近くの生ゴミ堆肥は午前中になくなりました。

家庭菜園で大根や人参、玉葱など作っている同町の小野勇さんは「生ゴミ堆肥と米ぬかを混ぜて完熟させた後に使くと、畑の地力増進につながり、おいしい野菜が育ちます」と話していました。

10月28日には、置戸町民を対象に堆肥還元が行われました。



▲生ゴミ堆肥を肥料袋に詰める小野さん夫妻

第9回 理事会報告

10月29日、午前9時00分より第9回定例理事会が開催され、報告事項13件、議決事項9件、協議事項1件が協議され、原案通り承認されました。

- 【報告事項】
- ①内部監査(総務部門)報告について
 - ②監事監査(定期:上半期)報告について
 - ③組合員状況報告について
 - ④財務状況報告について
 - ⑤JA共済コンプライアンス点検の結果報告について
 - ⑥作況調査(10月15日)報告について
 - ⑦「2012JAきたみらい長いも&収穫感謝祭」の日程変更について
 - ⑧平成24年産共計豆類仮渡金について
 - ⑨平成24年産もち米生産見込みについて
 - ⑩平成24年産共計玉ねぎ、馬鈴しょの概算金について
 - ⑪10月12日の集中豪雨による被害状況について
 - ⑫調停案件について
 - ⑬全国監査機構期中監査報告について

- 【議決事項】
- ①出資増減口及び持分譲渡について
 - ②固定資産の取得について
 - ③役員選任手続き要領(案)及び主要日程について
 - ④役員報酬審議会の手続き及び日程について
 - ⑤雹害に対する災害資金対応(案)について
 - ⑥平成24年農産物の取扱に伴う理事との利益相反取引について
 - ⑦平成25年産共計玉ねぎ取扱要領(早出し取扱細則)について
 - ⑧平成25年度以降の「小規模土地改良事業農地災害復旧事業関連資金」利子事業の創設について
 - ⑨第4次地域農業振興方策並びに中期経営計画樹立に向けた組合員アンケートの実施について

- 【協議事項】
- ①地域再編検討経過と今後の取り進めについて

訂正とお詫び

先月号(117号)の「おひさまサラダ」で、次の通り誤りがありましたので、訂正のうえ深くお詫び申し上げます。

■訂正箇所■
○10ページの東西南北・北見の記事で、丸子セツ子さんを↓丸子セツさんに訂正



【材料：4人前】

- | | | | | |
|-------|--------|---|------|-----------|
| ゆでうどん | ……3~4玉 | A | だし | ……カップ6 |
| 鶏胸肉 | ……200g | | スープの | |
| エビ | ……4~8尾 | | もと | …小さじ1 |
| シメジ | ……1パック | | しょうゆ | …大さじ1 |
| エノキダケ | ……1パック | | みりん | …大さじ1 |
| ネギ | ……1本 | | 塩 | …小さじ1・1/2 |
| ハクサイ | ……2~3枚 | | | |
| シュンギク | ……1束 | | | |
| かまぼこ | ……1/2本 | | | |

うどんすき

【エネルギー431kcal（1人分）】

【作り方】

- ①鶏肉はひと口大のそぎ切りに。エビは背わたを取り、尾を残して殻をむく。かまぼこは7mm厚さに切る。
- ②ネギは斜め切り、シメジとエノキダケは根を切ってほぐす。
- ③ハクサイとシュンギクは5cm長さに切る。材料を大皿に盛る。
- ④土鍋にAを合わせて煮立て、材料を煮ながらいただく（好みで一味唐辛子や小ネギ、ユズ、スダチなどを薬味に使う）。

メモ

だしの味が大切なので、コンブと削りかたつおでおいしのだしを取りましょう。中の具は寄せ鍋と同じようなものを準備すればOKです。ハマグリ、京がんも、ちくわ、ふ、シイタケ、サトイモ、ニンジン、ミツバ、セリなど、手元にあるものでたっぷり。

おひさまサラダ COOKING

♥おいしいもの大好き!♥



【材料：4人前】

- | | |
|---------------|------------|
| ダイコン | ……800g |
| 豚ひき肉 | ……200g |
| ショウガ | ……1かけ（10g） |
| サラダ油 | ……大さじ1 |
| 砂糖 | ……大さじ1 |
| みりん | ……大さじ1 |
| しょうゆ | ……大さじ3 |
| ネギ（4cm長さの千切り） | ……適量 |

ダイコンとひき肉の炒め煮

【エネルギー206kcal（1人分）】

【作り方】

- ①ダイコンは皮をむいて5cmの長さの乱切りにする。鍋にダイコンとかぶるくらいに水を入れて、強火に掛け、少し透き通ってくるくらいまでゆでる。ざるに取る。
- ②ショウガは粗みじん切る。
- ③厚手の鍋に油を熱し、②とひき肉を炒め、肉がバラバラになったら、①を加えて、炒める。水を1・1/2カップ（300cc）入れて煮る。
- ④③に砂糖、みりん、しょうゆを加え、中火で、汁が少なくなるまで、煮る。最後に強火にして、煮汁を全体に絡める。器に盛り、ネギを載せる。

メモ

大ぶりに切って、べっ甲色に煮たダイコンのおいしさを味わえる一品。早めに作って煮返すと、いっそう味が染みて味わい深く。味の乗った旬のダイコンで作っていただきたいもの。ひき肉との相乗効果も抜群です。

編集後記

- ・特集2で紹介した「農業体験&見て歩きツアー」に、10組の親子が参加し、楽しそうに芋掘り・乳搾り・哺乳体験をしました。
- ・私は乳搾り哺乳体験を担当しましたが、実際の搾乳牛をまのあたりにしたその大きさに驚いていました。子供たちは、リアルな牛の「乳搾り」は貴重な体験になったのではないのでしょうか。
- ・今後も、農業のことや農家のこと、JAのことをもっともっと知っていただけるようなイベント等を企画して「きたみらいのファン」を作っていきたいと思えます。
- ・また、農繁期の忙しいなか、快く協力を引き受けて頂いた農家の方々に“感謝”。
（酒井 沙織）

JAきたみらい概要

（平成24年10月20日現在）

- ・組合員数（正） 1,818人
- ・組合員数（准） 5,661人
- ・組合員戸数（正） 1,217戸
- ・貯金 100,393百万円
- ・貸出金 23,109百万円
- ・出資金 5,090百万円

発行 きたみらい農業協同組合
 〒090-0813 北海道北見市中ノ島町丁目1番8号
 TEL0157-32-8777(4)
 責任者/西川孝範
 編集者/営農振興部:企画振興グループ